



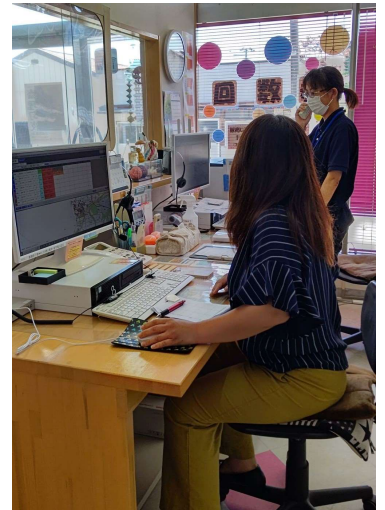
宮城県丸森町の取り組み

デマンドタクシーと地域おこし協力隊

7月5～7日、議員6人で宮城県丸森町を視察してきました。丸森町は人口12,000人（高齢化率44.0%）、面積273km²、阿武隈川をはさんで平地と山地が広がっています。ここを選んだのは、岩崎由美議員が昨年「熱中小学校」の講師として丸森町を訪れたことがきっかけでした。デマンドタクシーのほか、地域おこし協力隊が活躍し、移住対策にも力を入れている活気のある町と聞いていましたが、うわさにたがわず、現地で働く人たちから多くの刺激を受けてきました。

デマンドタクシー「あし丸くん」

「利用者は、まず予約センター（写真上）に電話する。次に予約した時間に利用者宅付近から出発し目的地へ着く。帰りも電話で予約すると、あし丸くんが町なかから利用者宅付近へ送り届けてくれる。予約の受付は朝7時から午後4時まで。1回400円（子供200円）」というものです。デマンドタクシーが1時間ごとに出るしくみなので、その時間に合わせた予約が必要で、利用者が減少しているとのこと。平成20（2008）年からスタートし、今年で16年目を迎えるそうですが、こうした課題もあり今後改善していくそうです。デマンドタクシーのほかに、病院に停まる路線バスや民間の移動販売車（写真下）も運行されていました。広い地域に8つの集落があるために、すべての人の需要に応える難しさを感じました。



商工会が民間に委託

商工会は、町に1社あるタクシー会社（路線バスも運営）と予約センターに事業を委託し、広い面積を6地区に分けて、10人乗りのワゴン車が6台で運行していました。1日の利用者は約46人。

事業を始めるにあたっては、商工会とタクシー会社とで何度も話し合いが行われ、その連携と信頼があってこそ事業が継続しているのだと思いました。

財源は県の補助金の一部から、丸森町商工会に補助金を交付しています。令和4（2022）年度の支出額は約5,000万円でした。

八丈町では

八丈島でも、高齢者に運転免許返納の動きがあります。昨年の路線バスのダイヤ改正で利用者は増えたものの、まだ思うような運行状況にはなく、交通手段の確保は差し迫った課題となっています。町で導入する場合は、予約の仕組みを工夫することや、路線バスとの連携が必要と思われます。

また、東京都の主導で9月末から半年間、AIデマンドタクシー実証実験（有料 1回300円、こども100円）が行われています。その結果をみて町の対応が示されることになるので、導入にはまだ時間がかかりそうです。高齢者の足の確保が一日も早く実現されるよう、引き続き要望していきます。





2023年9月議会 一般質問



1. 歴史民俗資料館は人との交流の場に

新資料館は耐震性の問題を解決した上で継続して使用することになり、平成29（2017）年に資料館の一時移転先が八丈支庁展示ホールに決まりました。これに先立ち移転・整備検討委員会が8人の構成員で立ち上げられ、議会からも3人（後に2人）入り、私も関わってきました。これまで18回開かれて検討を重ねてきたものの、委員の思いと町教委の考え方とは少しずつ乖離（かいり）していったように思います。

先日、全員協議会で新資料館の展示内容が示されました。最終的な設計・計画は委託会社の提案が多く盛り込まれたものになったという感想を持ちました。

資料館は、島民が学習する場であることはもちろん、観光客にとっては島の歴史を知る拠点となります。その際、観光客は文字やQRコードによる音声ガイドで館内を見るのは大歓迎です。ただ、資料館の価値を高めてきた生身のガイドによる案内はなくしてはなりません。根拠は、アンケートでの評価が高いこととリピーターが多いという事実です。展示内容と運営方法について伺います。

問 これまでどおり解説するガイドを置くこと

教育課長 資料館の整備に費用がかさんでいるので、イベントなどを企画しSNSを活用して島の内外に発信できる担当者を置き、その担当者がガイドや、来館者の問い合わせなどに対応する。ガイドの常駐の必要性については検討課題だ。

問 国の方向性が変わろうとしている今こそ、日本に戦争があった事実を風化させないための、学習の場を提供してもらいたい。戦争遺跡の展示コーナーを。

教育課長 新館部分で島の歴史を展示。現代部分で戦争遺跡コーナーを設ける。

問 企画展示を行うなど資料館の新たな可能性が開けるので、ぜひ学芸員を。

教育課長 配置したいと考えている。

2. 夏まつりの開催について

コロナ禍での生活が3年続き、今年ようやく夏まつりが行われることになりました。住民の期待は大きいと思いますが、内容を聞いて少し違和感を覚えました。住民から多くの不満の声があがっているので、次の2点を伺います。

問 3日の日程が2日になった理由と道路沿いに店舗を出さない理由は何か

産業観光課長 町は、実行委員会に補助金を出している立場なので、内容については関わらない。商工会青年部の人員不足で2日になったと聞く。店舗は庁舎内に出す。

問 実行委員会に議員を加えてほしい。

産業観光課長 これについても、町は直接関わっていない。

蓋を開けてみたら、今回の夏まつりは成功だったと思います。店舗のためのテントも簡易になり、数も前とほとんど変わらず、イベントも好評でした。これが新しい町の夏まつりのスタイルになるようです。駐車場の混乱なども少しずつ改善してほしいと思いました。



議会改革も一歩ずつ

昨年10月の改選から1年が経ちました。議員定数削減で12人になりましたが、議会改革に対する意欲は日に日に上がってきています。

定例議会の前に開かれる議会運営委員会では、どのように改革していくかの具体策を議論しています。まず、議会基本条例をつくるのが先か、できることから実践していくのかを議論し、ようやくできることから始めるとの意向でまとめ、まずは全議員参加で、住民懇談会を開くことになりました。

3年前に行って以来ですが、今回は改選後はじめてなので、まずは住民の意見を伺うという趣旨で行います。

第2回 住民懇談会

日時 11月17日(金曜日)
午後7時から9時
場所 町役場2階 大会議室

是非ご参加ください。
みなさんのご意見をお待ちしています。

自治振興委員のつどいがありました

9月28日(木) 18時～ 多目的ホールおじゃれ

八丈町には自治振興委員が各地区の地域ごとにおいて、町の広報や選挙公報などを配る役割を担っています。さらに今年は4月から9月まで、アシジロヒラフシアリの駆除実験としてハイドロジェルベイト剤の配布も行いました。振興委員の方からは、地区の要望のほかに「受け持つ世帯数が多くて負担が大きい」「住民の居住の確認ができないか」「放置された分別されていないゴミの対策をしてほしい」「空きびんの回収日を増やしてほしい」などの要望があり、いずれも切実な内容でした。

最近、振興委員が決まらない、そもそも自治会に入らない住民が増えてきているなど、町の自治組織がゆらいでいます。個人情報開示の制限や薄くなっている地域の絆をどう解決していくのかは、私たち議員も住民代表として町と向き合っていかなければならないと思いました。

編集後記



先月、町長選挙がありました。現職のほか2人の新人が立候補し選挙になったことは良かったと思います。新人2人にはその勇気と行動力に敬意を表します。

現職が圧勝しましたが、新しい町政を求めている住民も相当数いることも明らかになりました。4期目になる山下町長は、職員の減少、産業振興、医療介護、教育など多くの課題をかかえての船出となります。

また、議会は議員同士で勉強会を行うなど町の姿勢を厳しく注視していますので、対立するような事案も出てくるかもしれません。平穏で過ぎていくよりも、協調も対立もあって、結果としてよりよい町に変わっていければいいと思っています。

